

2022年度

# 環境経営レポート



 太陽油脂株式会社

太陽の恵み  
人にやさしく地球にやさしく

発行日：2023年06月28日

1 組織の概要	P.3
2 対象範囲	P.3
3 環境経営方針	P.4
4 環境経営管理実施体制	P.5
5 環境経営目標	P.6
6 環境経営計画	P.6 - 7
7 環境経営目標の実績	P.7 - 8
8 環境経営活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組	P.9 - 10
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.11 - 12
10 代表者による全体評価と見直しの結果	P.12
11 その他環境経営報告	P.13 - 19



# 1

## 組織の概要

### 事業所名及び代表者名

太陽油脂株式会社  
代表取締役社長 中山 悟

### 所在地

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

### 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：施設グループ グループリーダー 金井 一徳  
TEL：045-441-4962 FAX：045-441-9671

### 事業の概要

#### ①事業内容

食用加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売

石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売

#### ②事業規模

生産量：70,555 t / 年（食品 68,248 t / 年）

従業員数：288 人（2023/4 現在、  
従業員 240 名＋構内協力会社人数 48 名）

延べ床面積：14,638.46㎡

# 2

## 対象範囲

### 1) 認証・登録範囲（2009年認証取得）

食用加工油脂部門：ショートニング、マーガリン類、その他食用加工油脂および油脂加工製品の製造販売

石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

飼料部門：飼料用脂肪酸カルシウムの製造販売（2021年度登録）

### 2) レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2022年04月01日～2023年03月31日

発行日：2023年06月28日



一滴の油から、やさしさを広げる。「やさしさ」誰もが持つこの気持ちを、私たちははぐくみ、届けてきました。何気ない日常がほほえみでつまれるように、私たちは人を想い、自然を想う。生活が大きく変わり、不安を抱える今だから、もう一度あなたと共にやさしさを考えたい。100年後も、その先も、やさしさで繋がる未来を目指して、環境経営方針を掲げます。

A-KE002-07-0

改訂日 2020年08月20日

## 環境経営方針

太陽油脂は、「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」と掲げた企業理念のもと、誠実をモットーに、確かな技術とモノづくり精神に裏付けられた、人と、地球にやさしい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献するため以下の環境経営方針を定めます。

### 1. 環境、社会との共生に視点をおいた企業活動


- 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
- 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。

### 2. 人と環境に優しい製品の提供

- 2-1、太陽油脂は、「人と、地球にやさしい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境にやさしい生活」をも提供していきます。
- 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を継続改善していきます。
- 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境経営方針の全従業員への周知徹底を行い全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

2020年08月20日

 太陽油脂株式会社  
代表取締役社長 中山 悟

## 太陽油脂のSDGs重点テーマ

私たちは、自社の取り組みをSDGsの17のゴールと169のターゲットと照らし合わせ、事業との関連性で重要度を評価し、積極的にSDGsへ取り組んでいきます。







#### 実施体制役割説明

**代表者（社長）：**環境経営システムの構築・運用に必要な経営諸資源を準備する

環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境方針を定める

環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う

**環境管理責任者：**環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する

環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する

環境経営目標及び環境経営計画の策定を行い、社長の承認を得る

部門（部署）の「環境経営計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る

**EA21事務局：**環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う

全社の環境経営活動の運用状況を把握し円滑かつ効率的な活動となるよう総合調整を行う

**CSR委員会：**企業情報及びリクルート・CSR・SDGs・プロモーション等の活動において、一貫性を持った外部発信力を高め、

企業ブランド・商品ブランド認知及び社会価値の向上を図るための検討・決定機関として活動する。

**各部門長（各部署長）：**部門（部署）の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる

部門（部署）の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う

自部門（部署）の「環境経営計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する

**環境活動推進委員：**部門（部署）長を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務局として事務手続き等の実務を遂行する

**全従業者：**部門（部署）の推進委員を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務手続き等の実務を遂行する

部門（部署）の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する活動を行う

## 5 環境経営目標 (2020年度設置)

2017年度～2019年度までの実績を踏まえ、2020年度～2022年度の環境目標は以下の通りです。  
 (尚、2019年度の二酸化炭素排出係数(北電)は0.542(kg-CO<sub>2</sub>/kwh)を使用)  
 (年度:4月～3月 以下同じ)

製品生産量当たり	基準年度実績 2019年度	基準年度比 2020年度目標	基準年度比 2021年度目標	基準年度比 2022年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /t)	225.18	99.38%	96.78%	94.36%
産業廃棄物排出量 (t/t)	0.0340	99.78%	99.30%	99.17%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.0253	101.96%	101.88%	99.14%
食品リサイクル リサイクル率(%)	97.16%	97%以上	97%以上	97%以上
排水量 (m <sup>3</sup> /t)	2.81	99.78%	99.30%	99.17%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0426	99.78%	99.30%	99.17%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具 等の対象品の購入実施率)	93.69%	94%以上	95%以上	95%以上
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	97%	97%以上	97%以上	97%以上
地域とのコミュニケーション (石けん学習会など)	77回/年 1,748名/年	900人/年	1,800人/年	2,000人/年

## 6 環境経営計画 (2022年度)

2022年度の活動は、エコアクション21とCSR活動を連携強化し、横浜市Y-SDGs認証スーパーリア(Superior、2020年度取得)から、最上位評価のスプリーム(Supreme)の認証取得に繋がります。

環境経営計画	取組み内容
二酸化炭素排出量削減 <北電:排出係数 0.542kg-CO <sub>2</sub> /kWh> 2019年度比 94.36%以下	電気使用量 原単位削減 2019年度比:96.19%以下
	都市ガス使用量 原単位削減 2019年度比:87.0%以下
産業廃棄物 総廃出量削減 2019年度比 99.17%	一般廃棄物排出量 原単位削減 2019年度比:88.0%以下
	廃白土量削減 2019年度基準に 月187.35kg/t以下
食品廃棄物発生抑制 2019年度比 99.14%	食品廃棄物 発生量削減 2019年度比:99.14%以下
	食品リサイクル率 97%以上

環境経営計画		取り組み内容
総排水量削減 2019年度比 99.17%	水使用量 原単位削減 2019年度比：99.56%以上	①冷却水の循環利用 ②洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減する（過剰量を削減） ③冷却水の有効利用（再利用）
化学物質使用量削減 2019年度比 99.17%以下	化学物質使用量 原単位 2019年度比：99.17%以下	①使用量の適正管理実施 ②分析機器更新により溶剤使用を削減する ③触媒使用量の削減、リサイクルの実施
グリーン購入推進	グリーン購入実施率 95%以上	①グリーン購入対象品リストに従って、事務用品・文具を購入する ②購入部署はリストにある備品購入へ誘導する
環境配慮設計	環境配慮設計 の要素品の比率 97%以上維持	①RSPO使用製品、精製条件に基準を設定した製品開発 ②化学物質を使用せず石けんをベースにした商品開発 ③石けん化粧品の自社製品については、RSPO認証（パーム油）、FSC森林認証、共に100%の製品設定に切替えていく
地域とのコミュニケーション	地域との コミュニケーション 2,000人/年以上	①工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会を開催する ②地域清掃活動の継続実施（本社工場～国道周辺） ③コロナ禍対応として、Webリモートや出前による教育会を行う

## 7 環境経営目標の実績

### ① 二酸化炭素排出量原単位：kg-CO<sub>2</sub>/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標（%）（数値以下）	—	99.38	96.78	94.36
年度実績（%）：2019年度比	—	97.94	91.66	86.42
評価	基準	○達成	○達成	○達成
CO <sub>2</sub> 排出量（t）	15,783	15,598	15,177	13,640
非化石証書調達量（t）	—	—	424	1,528

（目標以下○）

### ② 総産業廃棄物量原単位：t/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標（%）（数値以下）	—	99.78	99.30	99.17
年度実績（%）：2019年度比	—	99.12	112.65	90.06
評価	基準	○達成	×未達成	○達成

（目標以下○）

### ③ 食品廃棄物発生量原単位：t/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標（%）（数値以下）	—	101.96	101.88	99.14
年度実績（%）：2019年度比	—	105.45	98.78	100.36
評価	基準	×未達成	○達成	×未達成

（目標以下○）

#### ④ 食品リサイクル率 (%)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	97.00	97.00	97.00
年度実績 (%)	97.16	97.23	95.82	93.50
評価	基準	○達成	×未達成	×未達成

(目標以上○)

(2022年度内訳)

①発生量 (t)	1,792.9	⑤減少量 (t)	0.0
②発生抑制量 (t)	0.0	⑥再生利用等以外の量 (t)	72.5
③再生利用量 (t)	841.1	⑦廃棄物としての処分量 (t)	0.0
④熱回収量 (t)	879.3	再生利用等の実施率 (%)	93.5

※化石原料由来の脱プラスチックに向けて、「生分解性プラスチック用途」として、廃油 72.5t の再資源化に取り組みました。  
しかし、現段階では前例がなく再生利用に認められませんでしたので、⑥再生利用等以外の量が多くなり、再生利用等の実施率が低くなっています。

#### ⑤ 総排水量原単位 : m<sup>3</sup>/t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標 (%) (数値以下)	—	99.78	99.30	99.17
年度実績 (%)	—	105.74	106.92	127.32
評価	基準	×未達成	×未達成	×未達成

(目標以下○)

#### ⑥ 化学物質使用量原単位 : kg /t

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標 (%) (数値以下)	—	99.78	99.30	99.17
年度実績 (%)	—	93.89	97.41	96.22
評価	基準	○達成	○達成	○達成

(目標以下○)

#### ⑦ グリーン購入実施率 (%) (作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	94.00	95.00	95.00
年度実績 (%)	93.69	91.57	96.49	97.17
評価	—	×未達成	○達成	○達成

(目標以上○)

#### ⑧ 環境配慮設計 (石けん化粧品事業) : 品/品・年

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	97.0	97.0	97.0
年度実績 (%)	97.0	100.0	100.0	100.0
評価	基準	○達成	○達成	○達成

(目標以上○)

#### ⑨ 地域とのコミュニケーション (石けん学習会など) : 人/年

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度目標 (人/年) (数値以上)	—	900	1,800	2,000
年度実績 (人/年)	—	974	1,017	1,517
評価	1,748	○達成	×未達成	×未達成

(目標以上○)

〈評価方法〉

○ : 達成 目標値達成  
△ : あと一歩 目標値に達していないが 80% の変化がある  
× : 未達 目標値未達成





環境経営計画		取組結果とその評価・<次年度の取組>
二酸化炭素 排出量削減 <北電：排出係数> 0.542kg-CO <sub>2</sub> /kWh 目標 2019年度比：94.36% 結果 2019年度比 86.42% (評価：○達成)	電気使用量 原単位削減 2019年度比：96.19%	目標（2019年度比：96.19%）⇒結果（114.26%）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①非化石証書（カーボンオフセット）を30%取得 （実績7,893kWh、CO <sub>2</sub> で1,528t減） ②空調設備の更新、照明のLED化、省エネ機器設置による効率向上 ③工程の短縮改善を行い生産性を上げる ④不適合品の発生を削減し生産性を向上 ⑤設備改善、設備起因のロス削減
	都市ガス使用量 原単位削減 2019年度比：87.0%	目標（2019年度比：87.0%）⇒結果（97.35%）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①脱臭機の条件改善による省エネ運転を確立 ②廃油利用による熱エネ減 ③製造条件見直しにより、過剰な蒸気使用量を削減する ④不適合発生を削減し、再製造等で発生するエネルギー使用を削減する
産業廃棄物排出量 削減 目標：2019年度比 99.17% 結果90.06% (評価：○達成)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2019年度比 ：88.0%以下	目標（2019年度比：88.0%）⇒結果（111.1%）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①資材・製品在庫の持ち方を見直し、不良在庫の廃棄量を削減する ②リサイクル対象物を再設定し資源強化 ③ごみの分別状況を点検し、回収箱の表示強化・レイアウト変更を行う
	廃白土量削減 2019年基準に 月187.35kg/t以下	目標（187.35kg/t以下⇒結果（151.17kg/t）（年度評価：○達成） <次年度取組> ①製造頻度の高い品目を主に色調管理し白土量削減を行う ②廃白土含油率を下げる圧搾処理設備を増強する
食品廃棄物 発生抑制 目標：2019年度比 99.14% 結果 100.36% (評価：×未達成)	食品廃棄物 発生量削減 2019年度比：99.14%	目標（2019年度比：99.14%）⇒結果（100.36%）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①油水分離回収設備の運用強化し廃油の資源化を増やす ②資材・製品在庫の持ち方を見直し、不良在庫の廃棄量を削減する ③製造条件を環境配慮設計のもと改定を進める
	食品リサイクル率 97.00%以上	目標（97.00%）⇒結果（93.50%）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①不適合品発生を抑制と再資源化率の監視活動を継続実施する
総排水量削減 目標：2019年度比 99.17% 結果127.32% (評価：×未達成)	水使用量 原単位削減 2019年度比：99.56%	目標（2019年度比：99.56%）⇒結果（111.18%）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①排水が定期的発生する現場を再点検し、設備不良による増加を改善する ①洗浄制御を見直し、水の使用量を削減する（充填工場洗浄方法） ②排水冷却設備を増設し、工程での水冷却投入量を下げる
化学物質 使用量削減 目標：2019年度比99.17%以下 結果96.22% (評価：○達成)	化学物質使用量 原単位 2019年度比 ：99.17%以下	目標（2019年度比：99.17%）⇒結果（96.22%）（年度評価：○達成） <次年度取組> ①化学物質使用機器の更新など機能UPを行い使用量の縮小を図る ②分析項目で慣例で実施など要不要を再点検し見直す
グリーン 購入推進 目標：95%以上 結果97.17% (評価：○達成)	グリーン購入 実施率推進 2019年度比 95%以上	目標（2019年度比95%以上）⇒結果（97.17%）（年度評価：○達成） <次年度取組> ①定期的に購入するグリーン購入品を特定しルール化する ②リスト化したグリーン購入対象品を選択した購買を行う
環境配慮設計 目標：97%以上 結果100% (評価：○達成)	環境配慮設計 (97%以上) 石けん化粧品事業	目標（97%以上）⇒結果（100%）（年度評価：○達成） <次年度取組> ①生分解プラスチックの採用を行い設計に組み込む ②石けん化粧品の自社新製品はRSPO100%、FSC100%対応を継続する
地域との コミュニケーション 目標2000人/年 結果1517人/年 (評価：×未達成)	地域との コミュニケーション (2000人/年)	目標（2000人/年）⇒結果（1,517人/年）（年度評価：×未達成） <次年度取組> ①サステナブルスクール「MANABIYA」を設置、横浜市とも連携し開催する ②上記スクール、見学会をWeb方式でも開催する

（評価について）○：達成 目標値達成  
△：あと一歩 取り組み開始されており、目標値に達していないが概ね（達成率80%程度）削減或いは抑制効果が確認されている  
×：未達成 目標値未達成（80%未満）

## 1) 主要な取り組みの総括評価

新脱臭機の運転条件を見直し過剰な設定の改善を進めたことや、非化石証書の購入継続によりCO<sub>2</sub>原単位は目標内に改善しました。また今後の熱源改善として廃油を利用するパイロボイラーを設置し2023年度以降の排出量削減としていきます。

一般廃棄物は、段ボールの廃棄が寸法統合などがあり増加しましたが、廃白土排出量を削減する取組み効果により、産業廃棄物の総排出量は減とできました。

水・排水量については、水の使用量は洗浄作業見直し等で前年度比では微減できたのですが、総排水量は増加となっており、降水量の多さが影響したと考えています。排水処理設備の水温上昇をおさえる対策として工業用水を冷却目的で散水しているため、次年度は熱交換設備を利用するなど、水使用量を減らす対策を進めていきます。

2020年度～2022年度までの実績を踏まえ、2023年度～2025年度の環境目標は以下の通りです。

製品生産量当たり	基準年度実績 2022年度	基準年度比 2023年度目標	基準年度比 2024年度目標	基準年度比 2025年度目標
二酸化炭素排出量 (kg - CO <sub>2</sub> / t)	193.32	83.00%	79.00%	75.00%
産業廃棄物排出量 (t / t)	0.0296	97.00%	95.00%	93.00%
食品廃棄物の発生抑制 (t / t)	0.02541	99.00%	96.00%	93.00%
食品リサイクル リサイクル率 (%)	93.50%	97% 以上	97% 以上	97% 以上
排水量 (m <sup>3</sup> / t)	3.58	99.00%	95.00%	91.00%
化学物質使用量 (kg / t)	0.0397	97.00%	93.00%	89.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具等の対象品の 購入実施率)	97.17%	95% 以上	95% 以上	95% 以上
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	100%	97% 以上	97% 以上	97% 以上
地域とのコミュニケーション (石鹸学習会など参加人数)	1,517人 / 年	2,000人 / 年	2,000人 / 年	2,000人 / 年

## 1) 適用法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、 ガスエンジン、 悪臭	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（NOxの許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回NOx測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保（屋上緑化推進）	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物（タンク）	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物（薬品庫）	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回/3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5kw以上）	○
省エネ法 （エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO <sub>2</sub> 換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法 （地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、 「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」 （1%以上／年平均のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」（公財）日本容器包装リサイクル協会	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則、石綿障害予防規則などの遵守	○

## 2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

私たちを取り巻くすべての課題に対して、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを取りながら、CSR活動やSDGsへの取り組みを通して持続可能な未来の実現を目指していきます。

## 10 代表者による全体評価と見直しの結果

年々内容が充実してきており、コロナ禍のなかでこれだけのことができたことは誇るべきこと太陽油脂はサステナブルが叫ばれる以前から環境に対する取り組みを行い継続している。一方昨年の指摘(見直し)から、各部門目標にはSCOPE 3を意識したテーマも加わり進化している。SCOPE 1, 2のCO<sub>2</sub>排出量ゼロが2050年まで達成できる過程となっているかを、常にチェックし3カ年の計画を管理していくこと。2050年までにCO<sub>2</sub>排出量ゼロの目標は、CSR委員会と連携し宣言することも計画すること。目標達成に足りる省エネテーマがあることが重要、新たなテーマアップも行い不足感のない活動を継続(PDCA)するように。

CSV経営やパーパス経営は、社会活動と経済活動の両輪、パーパスは志を目標に掲げ外部に発信・伝えるべきものを発信する、これだけのことをやっているというパーパス経営の視点、自慢ではなく主張することを奢ることなく伝える方法を議論して欲しい、様々な活動の記録が、会社内で完結してしまうのは勿体ない、どのように発信していくか、全社的なものとして仕掛けを作ってほしい。



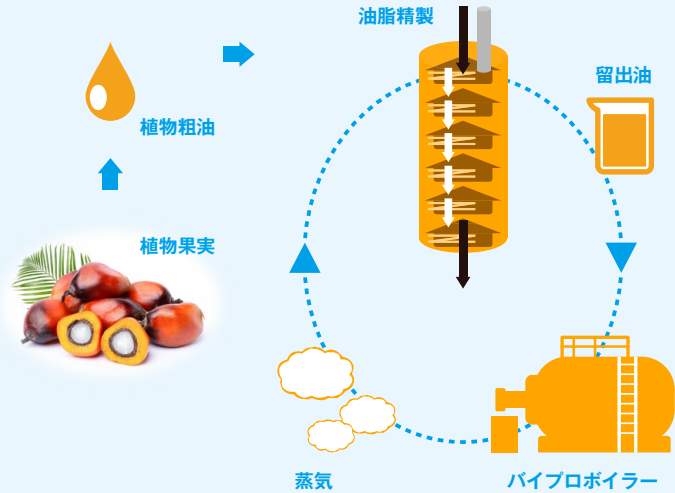
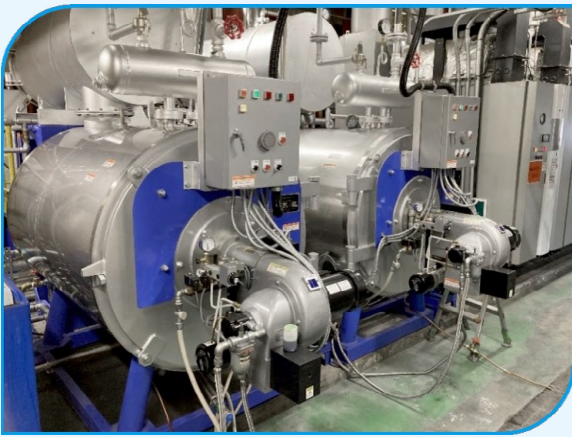


### ●エネルギー管理指定工場

省エネ法が1979年（昭和54年）に制定時から太陽油脂は、省エネルギー設備の導入・改造を行ってきました。現在はエコアクション21と連携し環境負荷を減する活動を継続しています。

### ●バイプロボイラーの導入

2022年度は植物油脂の蒸留精製時に発生する流出油（廃油）を利用した熱源設備「バイプロボイラー」の設置を計画しました。横浜市環境創造局設置許可を2022年10月に取得、年末から年明けで設備を設置し試運転と進めました。これを本稼働することで、2023年度の熱エネ期限のCO<sub>2</sub>排出量削減を図ります。（年間約935tのCO<sub>2</sub>削減を見込んでいます）



### ●横浜市「Y-SDGs」認証継続：最上位評価のスプリーム（Supreme）の認証取得

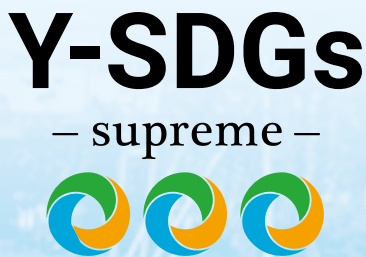
2022年度は「Y-SDGs」の更新審査となっており、初回審査時に強化が必要と判断された認証基準について全社で見直す取り組みを実施した（初回2020年度はスーパーア）。

#### 強化した取り組み

- ・健康経営…健康相談室設置（フィジカル・メンタルサポート強化）
- ・社会貢献（経済支援）…コスメバンクプロジェクト連携
- ・労務環境…女性比率UP、従業員の活躍に対する各種表彰制度の充実

継続審査を受け、2022年7月に最上位評価のスプリーム（Supreme）の認証を取得した。

#### 横浜市SDGs認証制度



（横浜市SDGs認証制度 / 私たち）は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。





## ●再生可能エネルギー

太陽油脂コーポレートサイトに、再生可能エネルギーを主要な取組テーマとして設置、「2030年までに使用電力の100%を再生可能エネルギーに切り替えます」を明記しています。

2022年度も継続して総電力量11,276千kWhに対し、約30%の3,380千kWhの非化石証書を取得しました。(CO<sub>2</sub>、1,528tカーボンオフセット)。使用電力の30%は、本社と石けん化粧品工場の消費電力100%以上に相当します。2023年度は取得比率を上げ、2030年には100%としていきます。

### 非化石証書購入実績

- ① 2022年 4月～ 6月：831,329kWh (工場 769,291 + 本社 62,038kWh)
- ② 2022年 7月～ 9月：945,795kWh (工場 840,311 + 本社 105,484kWh)
- ③ 2022年 10月～ 12月：832,556kWh (工場 67,950 + 本社 764,606kWh)
- ④ 2023年 1月～ 3月：771,092kWh (工場 698,875 + 本社 72,217kWh)

### 非化石証書

#### ①の証書

証明書番号：000000000823

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 工場
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2022/09/15
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	769,291 kWh

証明書番号：000000000825

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 本社
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2022/09/15
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	62,038 kWh

#### ②の証書

証明書番号：0000000003242

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 工場
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2022/12/15
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	840,311 kWh

証明書番号：0000000003243

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 本社
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2022/12/15
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	105,484 kWh

#### ③の証書

証明書番号：0000000006320

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 工場
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2023/03/11
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	67,950 kWh

証明書番号：0000000006321

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 本社
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2023/03/11
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	764,606 kWh

#### ④の証書

証明書番号：0000000013399

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 工場
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2023/06/08
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	698,875 kWh

証明書番号：0000000013398

トラッキング付非化石証書  
Non-fossil fuel certificate

残高証明書の宛名 Destination	太陽油脂株式会社 本社
JEPX会員名 JEPX member name	boost technologies株式会社
権利確定日 Issue date	2023/06/08
証書有効期限 Effective limit date	2023/06/30
権利確定済残高 Total amount	72,217 kWh

## ●「一個の石けんから地球環境を考える」石けん教室開催

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も小さくなり、YES(ヨコハマエコスクール) 経由以外で、※横浜観光コンベンション・ビューロー経由のSDGs 研修旅行の依頼が入るようになりました。リモートから対面での教室開催が増え、学生の皆さま向けに工場受入れ研修も開始しました。(27の団体に、35回講座を行うことができました)

### ○内容

- ① 工場受入れ研修、出前研修、WEB研修を受講者の希望を聞いての、啓発活動となりました。
- ② 実験(乳化の実験、振る石けん作り)、低学年のお子様には手でこねる石けん作りを体験していただき、石けんの性質(汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ)をお伝えしました。昨年に引き続き、環境にやさしいシャボン玉づくりの授業を実施しました
- ③ SDGsに貢献する企業活動の話や、石けんの原料としても多く使用されるパーム油の適正な使用に関するRSPOへの取り組みもお伝えすることで、エシカルな消費活動をお勧めしました。
- ④ 横浜市の※YES登録も三年目を迎え、コロナの影響も小さくなり多くの講座開催依頼がありました。  
※YES(ヨコハマ・エコ・スクール)  
市民団体・事業者・大学・行政等が施す温暖化対策やエコライフスタイルなど環境に関連する講座やイベント等の「学びの場」を支援し、「YES」という統一ブランドを活用して、「Zero Carbon Yokohama」を全市的ムーブメントに広げていく市民参加型プロジェクトです。
- ⑤ 横浜市教育委員会における「はまっこ未来カンパニープロジェクト」において、地域・社会貢献したいという小学生の思いに対し、産官学地域コミュニティが協力し、横浜金沢「黒船石けん」(コロナ対策、地元原材料、世界の環境や人々の為に)の製造から、販売活動に協力しました。11月27日横浜市庁舎にて開催された「SDGs未来都市・環境絵日記展2022」で太陽油脂のブースにて金沢区の瀬ヶ崎小学校の皆さんが黒船石けんを販売しました。(写真参照)
- ⑥ ※横浜観光コンベンション・ビューローに太陽油脂はY-SDGs認証取得企業として、「横浜SDGs探求学習ガイド」(写真参照)に登録されていましたが、コロナ禍で開催不可能でした。公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー(YCVB)は、横浜市及び神奈川県を中心とする産業・技術等の情報資源や歴史的・文化的資源を活用し、国内外からの観光客の誘致・コンベンションの誘致および開催支援等を行うことにより、横浜市及びその周辺地域における観光・コンベンションの振興を図ることを目的に設立されました。

コンベンションビューローはこちらから ⇒ <https://business.yokohamajapan.com/education/sdgs/>



### ○対象(参加団体)

・学校・団体(小学校11校、中学校9校、高校1校、大学1校、学童施設5施設 合計27)  
参加人数 合計 1,517名

### ○出張石けん学習会の様子





## ●「サステナブルスクール“MANABIYA”」の設置

横浜の子供達のSDGs学習、職業観や勤労観、地域貢献意識を育むことに横浜100年企業として「ともに創る未来」をスローガンに“MANABIYA”の活動をしてきました。コロナからの解放感からか、3年ぶりの修学旅行に目を輝かせる中学生や、アクリル板を取り払いワイワイしながらグループで実験する小学生の姿が印象的でした。講座の最後の質問コーナーでは活発な意見交換も出来、後日お礼のお手紙や寄せ書きもいただきました。一個の石けんから地球環境を考える「石けん教室」につきましては、石けんのみならず事業を通じてSDGsやRSPO、CO<sub>2</sub>削減といった内容もお話をしているので、ESD（持続可能な開発教育）の活動ともいえます。MANABIYAを構成するコンテンツを更に豊富にするため、新規の講義資料を鋭意作成中です

### 2022年度のおもな活動

2022年度4-3月	CSR・サステナビリティ委員会の運営（1回/月）
2022年度4-3月	YES他、出前講座の実施と複数講座の開設
2022年度7月	Y-SDGsのランクアップ(Supreme)取得 ※写真①
2022年度8月	民間テレビ広告枠にて「黒船石けん」とこども達の活動紹介
2022年度11月	横浜GPN寄付講座参加。関東学院大学にて石けんとRSPOについて講義
2022年度11月	こども「エコ活」大作戦2022協賛
2022年度11月	はじめよう！横浜でエシカル消費キャンペーン協賛
2022年度11月	「SDGs未来都市・環境絵日記展2022」参画、太陽油脂賞登録・表彰 ※写真②
2022年度12月	コスメバンクプロジェクト（第3回）協賛とギフトセット梱包支援※ <sup>1</sup>
2022年度12月	マツダサンプラザプロジェクト協賛
2022年度12月	第2回Y-SDGs認定事業者ミーティング参画
2022年度12月	横浜市戸塚区SDGsパネル展に参加
2023年度3月	「アトリエおからさん」と連携プロジェクト開始※ <sup>2</sup> ※写真③

※1… コスメバンクプロジェクトとは

一般社団法人バンクフォースマイルズ（事務局所在地：東京都港区、代表理事：山田メユミ）は、“女性と地球にスマイルを”増やすべく、行き先が決まっていない化粧品の余剰品を経済的困難下にある女性に無償でお届けするものです。

<http://cosmebank.jp/>

※2… アトリエおからさんとは

NPO法人フラットハート（三ツ橋健理事長）が運営する障害のある人の就労の場ヨコハマSDGsデザインセンターを介し、おからさんとの連携が始まった。

### 横浜市SDGs認証制度



（横浜市SDGs認証制度 / 私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。）

※写真①



※写真②



※写真③

## ●環境配慮設計商品の開発

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境を配慮した肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。石けん・化粧品研究開発グループでは、環境にやさしい石けん・化粧品製品を毎年開発しております。

本年度は原料、再生可能な有機資源から作られる当社として初めてのバイオマスプラスチックを使用した「Curious George handcream」を株式会社ロフト殿と共同開発しました。


またプラスチック廃棄量を削減するため、「BIORAL精油香る泡ボディソープ」2種と「BIORAL精油香る泡ハンドソープ」2種の詰替製品と空ボトルを株式会社ライフコーポレーション殿と共同開発しました。詰替袋のラベルをボトルに貼ることができる仕様になっております。

本年度に開発した商品は全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新して取得を続けております。

### 【環境配慮設計の基準】

- ・当社製品は石油由来の合成化学物質は使用せず、自然由来成分にこだわった石けんや化粧品を製造しています。
- ・商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造しています。
- ・プラスチックにおいてはその使用量を減らし、使用する場合はリサイクル可能・バイオマス由来・生分解性のある素材にしています。

**環境配慮2022年度新製品**



Curious George handcream



ボディソープ



ハンドソープ



BIORAL精油香る泡シリーズ


## ●持続可能なパーム油の調達 (RSPO)

RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) の普及 (Roundtable on Sustainable Palm Oil)

太陽油脂はパーム油を使用する企業として、パーム産業に関わる環境面や社会面の問題に目を向け、2011年3月にRSPOに正会員として加盟。

2015年2月からはRSPO認証の製品の販売を開始しており、トレードマークを順次表示しています。

※詳細はコーポレートサイト (以下URL) にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sustainability/>

RSPO情報は以下URLを参照ください (英文サイト)

<https://www.rspo.org>

太陽油脂RSPO情報は、以下URLを参照ください (英文サイト)

<https://www.rspo.org/members/779/Taiyo-Yushi-Corp>

このようなトレードマークを表示しています





## ●肥育期間短縮による肉牛のメタンガス排出量削減

大学や企業、農場と共同で研究を行い、「脂肪酸カルシウム」を製造・販売しています。この「脂肪酸カルシウム」は、肉牛のエサに混ぜるなどして与えることで、家畜が早く健やかに育ち、結果として反芻によるメタンガスの排出量が減少します。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

・飼料事業について

<https://taiyo-yushi.co.jp/service/feeds/>

・SDGsへの取り組み（肥育期間短縮による肉牛のメタンガス排出量削減）

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>



## ●太陽油脂のSDGs重点テーマ設置

自社の取り組みをSDGsの17のゴールと169のターゲットと照らし合わせ、事業との関連性で重要度を評価しました。そして以下の8項目を重点テーマとし、積極的にSDGsへ取り組んでいます。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/sdgs/>

## ●ヨコハマ・エコ・スクール（YES）との連携

YESは、横浜市が開催している環境に関連する講座やイベント等のプロジェクトです。



## ●ヨコハマSDGsデザインセンターとの連携

横浜市が抱える環境・経済社会的課題解決に向けて活動を行います。



※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/society/>

## ●地域への貢献

### ・清掃活動

地域貢献活動として、太陽油脂から国道までの道路周辺を毎週清掃活動しています。



### ・町内会への協力

毎年夏に行われる町内会イベント向けに例年通り協賛品を寄付。（近隣の3箇所の町内会）



## ・横浜FCとECOパートナー契約

プロサッカーチームの横浜FCとECOパートナー契約を締結し、製品の提供による横浜FCの環境配慮活動サポートや、イベント時の石けんづくりワークショップを通じてスポーツの支援を行っています。



## ・コスメバンク プロジェクト賛同

化粧品を経済的困難下の女性へ無償でお届けする「コスメバンク プロジェクト」賛同  
 一般社団法人バンクフォースマイルズ（事務局所在地：東京都港区、代表理事：山田メユミ）の、“女性と地球にスマイルを”増やすべく、行き先が決まっていない化粧品の余剰品を経済的困難下にある女性に無償でお届けする「コスメバンク プロジェクト」に賛同しています。

## ・地域スポーツ支援

神奈川県家庭婦人バレーボール大会に対し2019年に協賛と約7,500名に対する製品寄贈を行っています。

※詳細はコーポレートサイト（以下URL）にて

<https://taiyo-yushi.co.jp/csr/society/>

## ◎会社沿革

- 1919年（大正8年） 東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年） 南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年） 石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年） 太陽油脂株式会社として創立
- 1948年（昭和23年） 石けんシャンプーの商標を「ボックス」に決定
- 1950年（昭和25年） 我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年） ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年） 鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年） ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年） コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年） CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年） フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始  
関係会社「太陽サービス株式会社」創立
- 1989年（平成元年） 「ボックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年） HACCP認証取得（加工油脂）
- 2004年（平成16年） ISO9001:2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年） 「ボックスオーリー」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年） 「ボックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年） エコアクション21 認証・登録
- 2011年（平成23年） RSPO加入
- 2013年（平成25年） FSSC22000（食用加工油脂）取得  
SC認証（RSPO）取得  
基礎化粧品シリーズ「素肌レシピ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年） ISO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年） 創立70周年を迎える
- 2018年（平成30年） ISO9001：2008（石けん・化粧品）取得
- 2019年（令和元年） 創業100周年を迎える
- 2020年（令和2年） Y-SDGs認証スーパー取得
- 2021年（令和3年） SDGsの開発目標8項目を重点テーマ化  
非化石証書購入開始（2022年1月～）
- 2022年（令和4年） Y-SDGs最上位評価のスプリーム（Supreme）の認証取得



太陽油脂株式会社